

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	みやまの里理念として 誠心誠意まごころをこめて・・・を根幹として、日常生活を自発的且つ安全に送っていただけるよう支援している。	○	いろいろな地域行事への参加、または施設内のイベントへの招待という形で少しずつ取り組んでいるが、単発的なものが多く、もっと持続的なものに定着させていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関正面に、理念の中心となる言葉を掲げ、全職員が毎日 出勤時に見ることで、再度 認識を新たにし、その実践につとめている。	○	理念をもとに、各自 年間の目標を定め、その達成のために 日々努力をしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の説明などはしないが、日々の生活の中で、利用者の外出、地域の人々や家族の訪問等に対して、開放的に実施するようつとめることで、少しずつ理解が得られるものと信じている。	○	現在よりもさらに、外来者が来所して下さりやすい雰囲気作りにつとめ、行き来が楽にできるようにしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	努力している。単に立ち話や挨拶程度のことではなく、野菜作りを通じての交流や、イベントのお誘いなどを行っている。また、誘いを受けた時にはなるべく積極的に参加させていただいている。	○	現在は、職員が誘導する形が多いので これからは、利用者が中心になるような方向をさぐっていききたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会には参加していない。市の敬老会などには、希望者を募って参加する。(地域との話し合いの結果、自治会や老人会への参加はみあわせている) 季節の行事や保育所の行事、寺院の行事など、お誘いを受けて参加させていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組めていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価時の課題となった事柄に対し、改善に努めている。しかし、他同業施設との連携については取り組めていない。理念を掲げること。施設独自の献立を立て、食材の買出し、調理をする日を設けたことなど。	○	現在、施設独自のメニューは2日/週なので、今後は職員の状態をみながら、日数を増やせるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、各委員からの提言やアドバイスを受け、それが施設運営、特に大きなイベントを開催するにあたって大変な力となった。	○	初期消火訓練のマンネリ化の防止。イベント開催時の協力やアドバイスの受け方について、再考していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	情報の提供を受けたり、疑問解決の手助けをうけたり、アドバイスをうけたりしている。時にはグチを聴いていただくこともある。	○	さらに連携を深め、施設運営上のアドバイスをうけたり、他施設の情報や、他施設との連携の手助けをしていただきたいと思っている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員研修への参加。また、そこで得た情報の職員への周知につとめている。	○	さらに職員への周知を徹底し、虐待は勿論、身体拘束防止に関しても その必要性の大切さを認識し、日々の介護に役立てていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で、一つ一つの介護行為の問題点を洗い出すようつとめている。	○	研修や講習、講演等への積極的な参加により、絶えず新しい刺激を受けるようつとめたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時、利用申し込み時、事前面接時、入所時等、面談時間を十分にとり、家族や利用者のお話をしっかり聴き、説明も入念に行うようにつとめている。	○ 契約や解約に伴う面談だけにとどまらず、面会や、電話等の機会にも少しの時間でも直接家族のお話を伺えるようにはかっている。また、今後もそうしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特にそういった機会を設けているわけではない。が、居室訪問時など、チャンスがあれば、イベントのアイデアや食事のメニューなどもおうかがいすることもある。	○ 意識的に時間をつくり、じっくりと利用者一人ひとりからその思いをうかがえるように工夫していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	1回/2ヶ月のお便りの発行と、特に大きな行事などのときの葉書の送付をしている。その時に、預かり金出納帳をコピーして同封している。また、日常的に写真を撮影、アルバム作成しており、希望者には観ていただいている。	○ 今後もお便りは続けていきたい。また、アルバム作りも持続し、多くの思い出をお持ち帰りいただけるようにしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族代表には、運営推進会議への参加をお願いしており、その他の家族にはお顔を拝見する機会があるごとにお話をうかがうようにしている。	○ うれしい話やありがたい話は聴けても、苦情らしきご意見はなかなかうかがえない。忌憚のないご意見を聞かせていただけるような空気を作りたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	原則として1回/週のスタッフミーティングを継続している。また、その月の最終週は、職員が担当し当番制で企画から行っている。	○ ミーティングを続けて行く事自体がとても大切。内容は、連絡事項、イベントの企画相談、勉強会、研修報告、ケースカンファレンス等で多岐にわたる。時間枠の中で内容がありすぎて、駆け足になっていることがとても残念である。一つの課題をじっくりと深めるゆとりを持ちたい。欲張らないようにしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の要望に応えるために勤務調整を行ったことはない。もっぱら、イベントや、防災訓練等のためにとどまっている。一か月分づつ勤務表を作成。時間帯による人員配置については、最初に懸案したままの状態である。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフは安定しており、職員の移動は少ない。	○	今後も職員間の人間関係、業務内容の調整、個々人のメンタル面のフォローなどにつとめ、職員の移動が抑えられるようにしていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得のための勉強の機会は有効に活用することを薦め、さらにその伝達講習もおこなえるようにつとめている。		介護職員の勉強の機会は比較的少ない。勤務にもよるため、交代や休暇などを有効に活用している。介護職員の研修がもう少し多ければ、もっと参加の機会が増えるのではないかと期待している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域にはグループホームは他に2箇所しかなく、そことの緊密な交流はなく、会議や研修等で顔を合せる程度である。他の施設や、市外の施設とは情報交換や相談、訪問等の出来るところはあ	○	市が仲介して、ネットワーク作りをする計画ができつつあるとのこと。今後、それがうまく軌道に乗るよう協力していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフルームや、談話室の設置。飲食の会を設けるなどしている。時々スタッフ個々にたいしての面談を行い、(不定期)問題の抽出や解決につとめている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者の施設訪問は1回/週程度であり、時間が限られているため、これは概ね、管理者に委ねられた状態である。	○	それぞれの個性や特質をつかむことがむづかしく、個々人の能力を有効活用するにいたっていない。管理者の能力向上が求められている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主に事前面接時にそのための時間をとっている。話を伺うだけでなく、顔や声などでも印象付け、入所時に初対面ではないと思っていただけるように努力している。	○ 入所時、知らない人ばかりという心細さを軽減するため、人員数の許す限り、職員を伴ない面接に出かけ、その折、よく顔を覚えて頂き、入所時に安心感を得られるようにつとめていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学から入所後まで、なるべくお会いする機会を大切にし、気兼ねなく話せる空気を作る。利用者の状態をこまめにお知らせすることにもつとめる。	○ 何度も同じ話でも、よく伺い、丁寧な説明につとめる。また、それができる雰囲気作りにつとめる。どんなことでも、誠実にありのままをお話するようにつとめたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時すでに入所を希望しているという状態の方がほとんどである。ただ、その時点では満床という場合が多いが、急を要すると思われる方には、他の施設のご紹介等もしている。	○ 急を要する方には、他施設の紹介をし、在宅でまだ時間がありそうな方には、有効な在宅サービスの提案等もさせていただいている。介護保険そのものの説明から必要な場合もままあるが、いずれの方についても丁寧に、親切に対応していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空室があり、早急な入所を望まれる場合には、申し込みから何日も間をおかず、入所というケースもあり、少しずつ馴染んで下さるのを待つというわけにはいかない事が多い。	○ 空室があり、すぐにも受け入れ可能な状態であっても、お試しのご利用期間を儲け、利用者の心的動揺を軽減するような方法をとっていただけるように工夫していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先達として、日々の生活の中で学ぶことも多く、お互いに足りていないもの欠けているものを補い合うという気持ちで過ごしている。	○ 実際の細かなところでは、畑仕事、年中行事、保存食作り、調理等、様々の知恵や力を貸して下さっている。これらは限られた方達であるが、その他の方々についても、ともに支えあって生きているという実感を味わいながら毎日を送っていきたい。

岐阜県 グループホームみやまの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を報告し、また、家族からは以前のことをお聞きし、お互いに情報を交換しあうことで少しの変化にも一喜一憂し、本人の支援にそれを役立てていけるようつとめている。	○	面会時に情報交換したり、外泊時の様子をお尋ねしたりしている。過去の生活状況をお尋ねするが、断片的で 介護のヒントになるものを捉えることが難しい。僅かのヒントからその次のことを導き出せるような面接の技法や、情報収集能力の向上につとめたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	面会の機会を増やしたり、外出や外泊の願いをしたりしている。また、家族をお迎えしてのイベントの企画をしたりもしている。他にアルバム作成や、お便りなどで様子をお知らせしたりもしている。	○	普段の生活ではお便りの発行は1回/2ヶ月。面会、外出、外泊の願いや、イベント参加の願いをしたりしているが、入所期間が長期になるにつれ、その頻度は落ちるので、同じレベルを保てるようにしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	住んでいた地域の行事への参加の支援や、友人達との交流が続けられるよう支援している。	○	以前の居住地での行事や友人親戚等のお誘いには応じられるよう調整や支援をしているが、一部の利用者に限られている。他の一部の方に関しては全くない方もあり、それに代わるものをここで作れたらと努力している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	基本的にその方が他の方とどういう関わりを望んでおられるかを知り、それに合せた関係作りにつとめている。利用者間での交流に対しては、出過ぎないように見守ることを主とし、ズレが生じていると感じた時に調整をしている。職員間で情報を共有することで支援に継続性を持たせるようつと	○	共同の作業やレクを通じて関係を深めるようつとめたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方との交流は少ない。他の施設へ行かれてからも訪ねてくださる方もあったが、時間の経過とともにそれもなくなっていった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接、入所時の面談の他、日々の生活の中の会話等から覗えるものをケアプランに反映させている。	○	利用者本人 それが無理ならば家族等との面談からプランに取り込み、ミーティング時等で話し合ってるべくそれにそえるような支援を実践できるようつとめていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に至るまでの面談の中や入所以降の会話の中から知りえたことを記録に残し、職員全員で共有できるようつとめている。	○	僅かの時間の中で質問ばかりするという印象を持たれず情報を収集するのは難しく、その上達につとめたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日報、介護記録、スタッフノート等、記録物への入念な観察と記録。ケースカンファレンスの実施等により、独断的な見方をせず、様々な方向からの把握ができるようつとめている。	○	流れ続けている時間の中でのその時その時であることを忘れず、変化を見逃さないように見守っていけるよう、各時間帯の勤務者の引継ぎに力を入れていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族との面談の他、サービス担当者会議やそれに変わる聞き取り、職員間でのカンファレンス、時々のアセスメント等を反映した計画作成につとめている。	○	サービス担当者会議をそれらしいものとして開催したいのであるが、それぞれに忙しく都合もあり、お願いすることが難しい。銘銘に聞き取りになることが多い。せめて1年に1回でも顔を合せた会議が持てるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特に体調の変化（入院等）が生じた場合等は新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録や、スタッフノートの利用、ミーティングの実施などにより、情報の共有化はもとより、主治医の治療への参考にも活かしている。	○	記録物の有効的な記録の仕方の勉強を進めていきたい。また、記録された内容をさらに深く追求して、以後の介護に役立てることができるよう発展させていく力をつけていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関以外の受診の場合、家族の都合が悪いときの通院支援や、選挙投票の希望者の送迎支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	イベントの協力をボランティアの方々から受けたり、迷子や事故に備えて警察や消防署との連携をしている。また、近くの保育所とは行事や散歩などで交流をし、変化に富んだ生活をして頂けるよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	経済的な部分や重度化した場合にそなえて、施設変更の希望のある方には事前に受け入れ可能な事業者との連携をはかったり、家族との連携をはかたりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援で且つ経済状態に不安のある方について、包括支援センターと協力しあい、お互いに相談しながら様子をみている。		

岐阜県 グループホームみやまの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問看護、定期的な受診、のほか、必要時の緊急受診、他科受診等 対応している。主治医に対しては介護計画のアドバイスや、FAX等の利用で連携につとめている。日々の状態を記録し、その記録を参考にしていただいている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が必要と認めた場合は、その紹介を得た医療機関へ受診できるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護を依頼して、定期的にその管理を受けている。1回/2週の訪問看護をうけている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関だけでなく、本人や家族の希望する医療機関であっても、必要に応じた面会や衣類交換、面談などに対応している。	○	入院時には施設での生活状況や、今までの治療に関することを記録した介護要約を作成し、情報の提供につとめている。また、必要時にはすぐに訪問して対応している。今後もなるべく緊密に連携していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にお互いの意思の確認をしているが、それだけでなく、状態の変化にともない、その都度再確認するようつとめていくつもりである。	○	対象となる事例が現在に至るまだない。が、少しずつ近づいてきている様子も感じられるため、家族や主治医、職員間で再確認をしていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化が見込まれるため、主治医や家族、職員間において、少しずつ検討をはじめめる段階か。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やこれから移る施設職員との話し合いだけでなく、情報の提供や新しい職員との面談などを行い、環境の変化に対する動揺をおさえられるようつとめている。	○	新しい施設を訪問したり、そこの職員との面談をしたり、ということはそちらの都合もあり、回数を重ねることは困難である。できてもせいぜい1回なので、今後はもっとゆとりを持って繰り返しできるようにしていきたい。勿論、相手の施設との協調の上である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室はその方の家であるという観念で対応し、その好みを尊重している。軽んじていると受け取られないような対応に心がけ、また、差別を感じさせないようにつとめている。個人情報に関しては、一切持ち出さない。	○	一つ一つの介護行為に対して、必ず声かけをして、了解を得るようにつとめている。どの方に対しても同じ様に対応するよう心がけていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が何か思いを伝えたそうにしておられる姿を見かけたら、時間をかけて 受け止める姿勢を現わすようつとめ、あらゆる事柄についても本人の意志を尊重した対応ができるように努力している。	○	傾聴、受容の姿勢につとめ、ささやかなことでも、本人の自己決定を尊重し少しでも多くの満足感や納得を得ていただけるような支援を心がけていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や好みを理解しなるべく、本人の望むような生活ができるように支援している。基本的な一日の流れはあるが、それに沿う必要はない。	○	レクや作業等、一応全員に声をかけ、お誘いはするが、必ずしも参加の必要はなく、思い思いの過ごし方を尊重していきたい。まだまだ個人の希望に完全に副えているわけではない。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	あくまでも自己決定を尊重するが、できないところは本人に合わせて援助し、アドバイスを行っている。理美容は、基本的に施設への訪問でお願いし、本人が希望されれば職員が行うときもある。	○	職員の理美容を希望される方がほとんどであるので、技術の向上につとめたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の方には準備、テーブル拭き、調理のついで、片付けなどをお願いするときもあるが、常時ではない。食事は介助や見守りをしながら、職員も同じものをいっしょにいただいている。	○	メニューを考えるとときの相談にのっていただいたり、調理への参加などの機会をもっとふやしたい。が、可能な方達は以前の生活ではあまり家事に携わっておられず、困難な部分もある。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医との連携をしながら嗜好品が楽しめるような体制はできている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	訴えがあるときは勿論、本人のパターンを掴み、時間的誘導や声かけなどを行い、なるべくトイレでの排泄ができるよう支援している。おむつは昼間は使用しないようにしている。	○	オムツ使用の方も昼間はリハビリパンツやキャッチにして、トイレでの排泄を促している。失敗に対しては、騒がず人知れず清潔にできるようつとめていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯、入浴順序等は不公平のないよう職員が決定しているが、本人の状況や汚染状態などを考慮しその時に合わせて随時変更している。	○	ほとんどの入浴行為は職員側の都合が多いので、入浴剤の使用や季節の風習などを盛り込んで変化をもたせたり、なるべく本人のペースで入浴時間内を進めるようにつとめていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入床時間起床時間はそれぞれ自由であり強制はしない。昼間でも居室での休息は自由にしていただいている。そのための室温の調整や光量の調整など、安心して休んでいただけるよう支援している。	○	居室のレイアウトや持ち物等は本人の好みでなされており、休息や睡眠が安心してとっていただけるよう配慮している。その方にあわせて、時間に囚われずに生活していただけるよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	様々なレクや作業を通じて、特技や好みを把握し、なるべくそれに合わせた楽しみを持っていただけるよう工夫している。慰問などもとりいれている。	○	変化に富み、充実感の得られるような生活とはどんな生活なのか 職員の間においてもそれぞれに考えて利用者の生き生きとした表情を見られるように工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には少額の小遣いを所持していただき、自由に使用していただいているが、概ねお預かりして管理している。希望されれば、自由に使用することができる。	○	自分で選んだものを自分の手から支払って、買い物することの喜びを感じていただけるような機会をもっとふやしていきたい。例 買い物 外食等
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人での外出の可能な方はそつと影から見守りながら出かけていただく。(近所まで) 可能でない方はその都度一緒にでかけるようにつとめている。	○	基本的に本人の希望通りにしていただいているが、時間帯や、職員の数などにより、見守りが大変な時もある。天候に左右されることも多いが、安心してどなたのご希望にも応じられるようにしていきたいものである。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	喫茶店、外食、買い物など 普段の散歩程度では行けないところへの外出も実施している。また、家族の協力を得ることにより、本人の希望する遠方への外出も時々行っている。	○	施設の行事としての外出は全員を対象としているが、家族に依頼しての外出は一部の方に限られている。家族の支援を望めない方の希望をいかに叶えるかを模索していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それが可能な方に対しては対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	一応時間はうたってあるが、特に規制はしておらず、ゆっくりと面談ができるよう 居室の使用やフロアでの談話など自由にしていただいている。	○	一部の限られた方への面会が多く、殆ど面会のない方もいらっしゃるのでは、その方達が孤独感をもたれることのないように支援していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしない介護であるようつとめている。	○	一人勤務である夜間に限り、どうしても必要なときに限り身体拘束の同意を家族からいただいているが、それでもなるべくそれを利用することなく介護できるようつとめていきたい。

岐阜県 グループホームみやまの里

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には全て鍵はなく、玄関の施錠も夜間のみとしている。徘徊をされる方や外出希望の方もあり、見守りを徹底するようつとめている。	○	来訪者も自由に入れるため、その管理もきちんとする必要がある。また、利用者に関しては見守りを徹底することで、その安全を図っていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	勤務者が減る夜間は異常がなければ、原則として2時間毎の巡回をし、何か問題があったり、コールがあればその都度ただちに対応している。昼間は見守り主体の勤務者を一人以上作って対応している。	○	干渉し過ぎないように注意しながら、状態の把握をするようつとめていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在のところ、特にはさみの個人持ちであるが、それを使って小さな作品作りに生きがいを感じておられる方もあるので、全面的に使用禁止とはいかない。絶えずそれとなく見守ることで本人だけでなく他者にも危険が及ばないように注意している。	○	安全を図るためにその方の楽しみまで奪うことはできないのでその使用については細心の注意が必要。保管や使用方法等、時には本人の気づかないところでも確認や配慮を続けていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	見守りや付き添いはもとより、1対1の介助で不安な介護行為に対しては1対2で、あるいはそれ以上の人員による介助も実施している。服薬に対してはさらに4回の手を通して実施している。	○	職員同志のチェックだけでなく、マニュアルの作成、それに沿った実行につとめていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の初期消火訓練の際に、初期対応訓練を同時に実施している。また、急変時のマニュアルの作成。連絡網の整備に取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、警察署等との連携はできていると思われるが、地域に対して、災害時の連携をいかにお願いしていくのが今後の課題である。	○	地域の方々との係わり合いは、現在、日常的なお付き合いをしたり、行事に行き来する程度であり、いざという時にどうなるのかがつかめない。お願いはしてあるが不安である。機会あるごとに相談をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にた対応策を話し合っている	入所にあたり、説明している。また、その時々 の機会を得てお話ししている。ただ、安全を重視 するあまり、消極的な生活の状態にならないよう につとめている。	○	日常的に、話が出来るときは家族の方と多く話 をして、お互いを理解しあえるようにつとめてい きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気付いた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	隔週の定期診療、訪問看護をはじめとして、毎 日のバイタルチェック、全身状態の観察等で主治 医との連携を大切にしている。その結果主治医の 指示の正確な実施につとめている。それらは、全 職員において共有されている。	○	個人の介護記録、日報、スタッフノート等を利用 して 引継ぎを毎回行い、全職員に周知。また、 ミーティングやカンファレンス等でそれをさら に掘り下げていくようにつとめていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている	処方が出されたら、薬情報を提供、変更があれば さらにその都度情報の追加をしている。特に大き な副作用などについては、口頭でも周知し、その 変化に注意を促している。	○	個々人の処方の情報については職員全員が眼を通 せるよう薬情書を個人ファイルに組み込んでい る。大きな変化の予想されるものについては、口 頭でも注意を喚起しているが、もっぱら職員個人 の理解にまかせているので、さらにきちんと周知 できる方法を探していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	メニューや食材の選択、調理法、おやつ の活用、軽度の運動、水分の調整、さらには主治 医との連携による薬物の使用などにおいて、す っきりと気分良い排泄習慣が身に付くよう工夫 している。	○	体操や散歩、十分な水分補給、食生活の工夫、 おやつの内容の工夫など排泄コントロールに努力 を続けたい。チェックには排便チェック表を利用 している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている	起床時就寝前だけでなく、毎食後の口腔 ケアにつとめている。完全に自立できる一部 の方以外はすべて見守りや介助のもとで実施 されている。義歯の管理にも留意している。	○	口腔ケア時ももちろんであるが、外出から 帰設したときや不快を感じた時なども緑茶 でのうがいを推進している。かぜの予防にも なるため、今後も続行していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の毎食の食事量、水分量、排泄状態等、 全て記録し、その変化を知る。また、本人の 摂取可能な状態に合せた調理につとめている。	○	毎日の記録により、量や形態など当人の能力 を知ることが出来、それに合せたサービスの 提供ができるようつとめている。能力だけで なく、好みにも対応できるよう、食材や調理 方法にも工夫をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	している。3回/日屋内全体の消毒。各人の手洗いとうがい励行。職員の業務によるエプロンやスカーフの使用、汚物の消毒（下痢や嘔吐の場合は特に）キッチン、洗面所、トイレ、手すり、食器類の消毒等。	○	現在 実際にチェックリスト等を作成して、実施しているが、完全なマニュアルが完成していないので、全てをマニュアル化していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は3台の冷蔵庫に保管。食材は長期保存は避け、期限内に消費するようつとめる。食器、調理器具、キッチン等の衛生にも留意し、消毒を欠かさない。介護用エプロンと調理用エプロンの区別化もしている。	○	衛生的且つ新鮮な食材を求めているだけでなく、畑で自家栽培にも挑戦している。食材としての活用だけでなく、その栽培や収穫などを利用者とともに働くことでともに生きていくことを実感できるようになれたらと思っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はフラットで車椅子等でも出入りしやすく設計されている。腰を下ろして履物を交換できるようにベンチを設置。気分を和らげる一助となるように季節の草花を栽培。毎日周辺の掃除をして、すっきりさせている。門扉は開放している。	○	木の葉が落ちて、毎日の掃除が大変であるが、利用者の日課ともなっていて、それも大切なこととおもっている。ただ、草花の手入れが十分に出来ていないので、もう少し時間を作り、利用者とともに作業が出来たらよい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物周囲の環境を活かした明るいフロアに木を基本とした調度、手作りの装飾品に工夫をこらしている。また、利用者の作品を数多く展示し、努力の成果を発表している。	○	我々施設職員としては居心地が良いと感じていることでも、果たして利用者はどう感じておられるのか。不満の声を聞いたことはないが、我慢したり、遠慮されたりしているのではないかと思うこともあり、もう少し利用者の声に耳を傾ける必要があるのではないかと。もう少し声にならない声を聴けるようになりたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにおいてはほとんどの方が自分の居場所を持ってもらえる。	○	自分の居場所がほぼ決まっているのであるが、時に介護者の都合で違ったところを指定されることがある。利用者本人が意思を伝えられない方によくみられることであるが、“介護しやすい”と“本人の気持ち”との差をもう少し認識したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時愛用されていたものは希望のものを持ち込んでいただき、お好みのレイアウトをしていただいている。食器等も好みのものがあればそれを使用していただいている。	○	今後も現在の方針で進めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室にエアコンを設備し、本人の希望に応じている。掃除のときや、天候具合などにも合わせて窓の開閉をし、空気の入替えにつとめている。芳香剤ではなく、消臭剤を使用するときもある。	○	現在の方針で進めていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物となるようなものを動線上に置かないようにつとめ、手すりの利用や広いスペースをとったトイレの設備なども配慮している。施設内は前面フラットとなっている。	○	環境は現在の心がけをもって整備を続けることと、これに常時の見守りを緊張感を持って続けていけるようつとめたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自己決定を重視することで本人の満足感や納得を感じていただけるようつとめている。何かの行為が職員から見ると迷惑だったり失敗だったりすることも、本人の思いを汲み取ろうと努力することで本人の意欲をそがない様につとめている。	○	個々人の能力を推し量ることは難しく、ほとんどのことは一応全員を対象として行う。全ての職員がすべての利用者を同じように理解することはとても困難であるが、そうなっていけるように努力をしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダはないが、玄関アプローチの掃除を仕事としてくださる方もあれば、畑や施設周辺の草取りをして下さる利用者もある。収穫にはみんなで取り組むこともあり、外周の活用はできていると思われる。	○	全利用者が同じ頻度で建物周辺での活動に参加できるとは限らないので、もう少し個人に合わせて、利用できるようにしたい。地域がら季節によって全く外へ出られない日が続くこともあり、その点は残念である。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

岐阜県 グループホームみやまの里

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

在宅のころの生活とあまり変わらない感じで過ごしていただけるようにと支援しています。規則や時間にとらわれず、今まで自分をおさえたり、ひかえたり、我慢してきたことを表出していただけたら、出来る限り其れに副えるようにとつとめていきたいと思っています。毎日を利用者と職員がお互いに支えあって生活していけることに感謝しながら暮らせたら本当にうれしい。